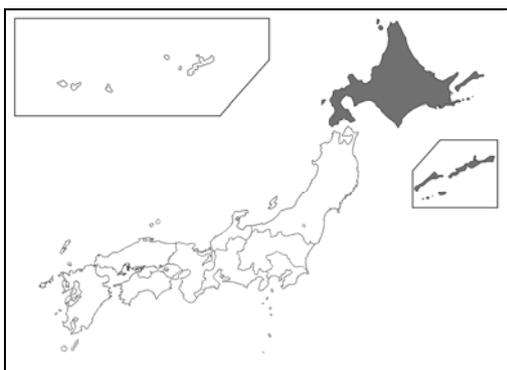


### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更 )

#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 26 年 11 月)	今回 (平成 27 年 2 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	<u>緩やかに減少</u>	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	改善	<u>着実に改善</u>	

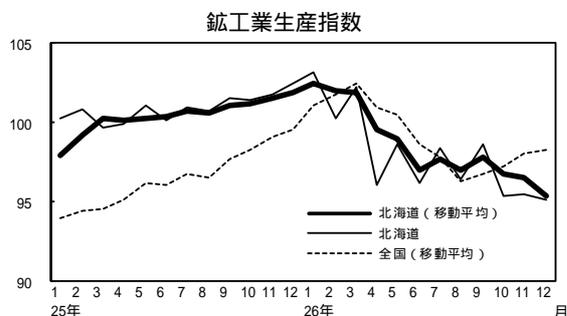
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。

10～12月期には、生乳生産は乳製品向けが減少したため、総量では938,498tと前年比0.0%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比32.0%減となった。

(2) 鉱工業生産は、緩やかに減少している。

10～12月期には、食料品は、乳製品が原料となる生乳が不足している影響などから減少した。パルプ・紙は、新聞巻取紙が設備の定期修理やトラブルがあった影響などから減少した。電気機械は、集積回路が年末に向けてゲーム機やデジタル家電製品の生産が好調だったことなどから増加した。鉄鋼は、建設機械向け製品が国内の建設需要が好調だったことなどから増加した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置が北米向けは好調な一方、国内向けの自動車販売が減少している影響などから減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
食料品	24.2	2.7	0.2	2.6	1.4	0.4
パルプ・紙	11.9	1.7	1.6	0.1	0.7	2.6
電気機械	11.7	0.7	2.1	4.1	2.4	2.1
鉄鋼	7.5	3.3	0.7	4.7	5.0	0.4
輸送機械	7.0	8.4	8.2	10.0	5.7	4.3
鉱工業	100.0	0.8	2.5	3.2	0.1	0.3

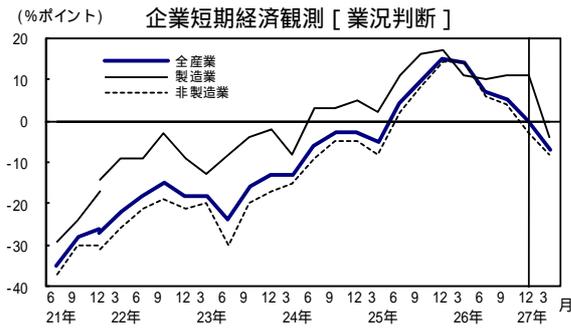
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10～12月期、12月は速報値。

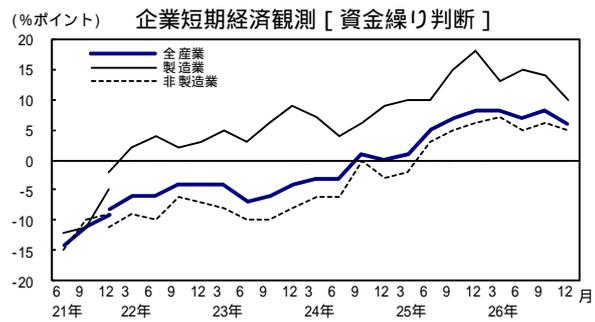
(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

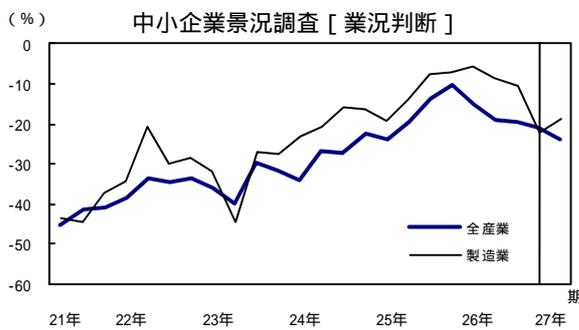
(3) 業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年3月は予測。  
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
21年12月は新・旧基準を併記。

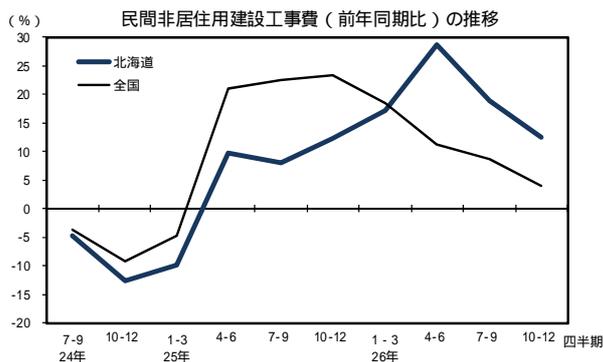


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「外国人観光客は増加しているが、訪問先が道央圏にとどまっているため、地方では恩恵を受けていない。建設業は公共工事のピークが過ぎ、低迷している(金融業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

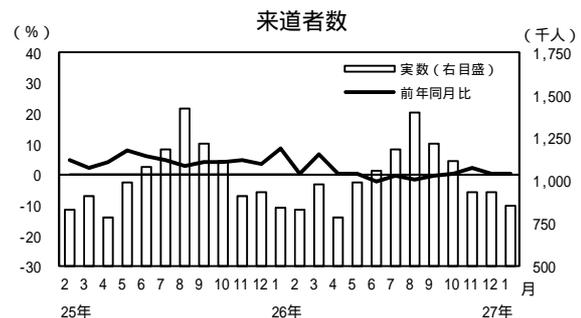
(前年度比、%)

	25年度実績	26年度計画
全産業	0.8	16.9( 0.1)
製造業	14.7	7.4( 4.4)
非製造業	15.6	34.2( 2.4)

(備考) 1.( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、おおむね横ばいで推移している。  
来道者数は、11月は休日が前年より2日多かったこと、12月は年末の並びが良かったことなどにより増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.9%減、11月は同1.8%増、12月は同0.9%減となった。

大型小売店販売額

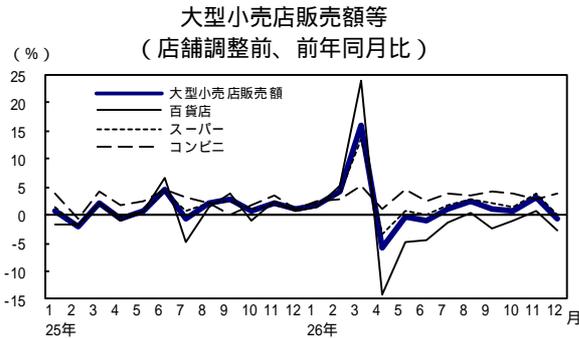
百貨店は、10月は、飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を下回った。11月は、身の回り品は前年を下回ったものの、衣料品、飲食料品、その他は前年を上回った。12月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品は前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、46.3となり前月より6.8ポイント上昇した。

「外国人観光客の増加により、売上がかなり増加している。円安や中国人に対するビザ発給要件の緩和といった要因もあるが、やはり外国人旅行者への消費税免税制度における対象品目拡大の効果が大きく、当店の免税販売額は前年から倍増している (一般小売店 [土産])」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

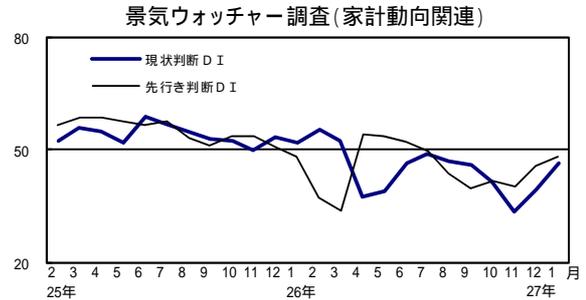
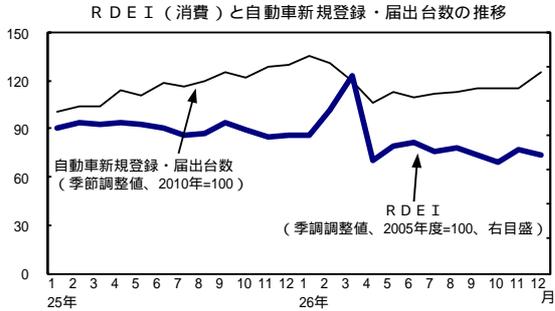


	26年10-12月	26年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.6	0.9	1.8	0.9
大型小売店 (*2)	1.0	0.8	3.2	0.6
百貨店 (*2)	1.1	1.1	0.9	2.6
スーパー (*2)	1.6	1.4	3.9	0.0
コンビニ (*2)	3.5	3.8	2.7	3.9
乗用車 (*3)	7.7	7.2	13.7	1.0
(季節調整値) (*3)	4.5	0.4	0.6	8.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

